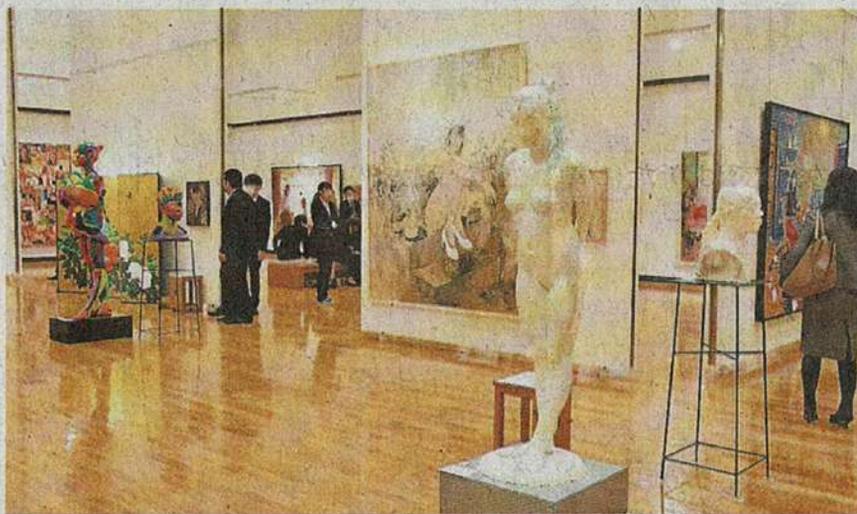


# 内面見つめ作品で表現

## 県美分館 崇城大卒業・修了展



多様な作品が並ぶ崇城大芸術学部卒業展・  
大学院芸術研究科修了展＝熊本市中央区

崇城大芸術学部卒業展・  
大学院芸術研究科修了展が  
21日、熊本市中央区の県立  
美術館分館で始まった。新  
型コロナウイルス禍で活動  
が制限される中、制作と向  
き合ってきた学生たちの内  
面を掘り下げた作品が並  
ぶ。26日まで。

同大芸術学部美術学科と  
デザイン学科、大学院を今

春卒業・修了する72人が4  
27点を出品している。全  
体テーマは「解」。対面で学  
べない時期を経て、それぞ  
れが自身の作品や研究を見  
つめ直し、学んできたこと  
をひもとく思いを込めた。

福岡めぐみさん（4年）

の日本画は、自粛期間に思  
うように行動できず待つこ  
としかできなかった気持ち  
を、雨上がりの階段に座る  
女性に重ねた。藤本美空さ  
ん（同）の彫刻は、少しう  
つむいた女性の物憂げな表  
情と、白く柔らかな肌の質  
感が目を引く。藤本さんは  
タイトルを「sigh」（た  
め息）とし、「大学に行け  
ない日々は苦しかった。作  
品を見てもらうのも難しか  
ったので、この機会に私た  
ちの『解』を見てほしい」  
と話した。

山鹿市の風景や特産品か  
ら抽出した色を「灯籠ゴー  
ルド」など「山鹿カラー」  
と名付けた研究や、少年院  
の出院者らを受け入れる県  
内の「職親」を紹介する映  
像作品なども並んでいる。

（澤本麻里子）